

Title	法令
Author(s)	
Citation	經濟論叢 (1925), 21(3): 459-464
Issue Date	1925-09-01
URL	http://dx.doi.org/10.14989/128314
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第 三 號 第 二 十 一 卷

大正十四年九月一日發行

論 叢

資本論第一版と第二版との相違……法學博士 河上 肇

南京條約^{以前}の治外法權問題^{に就いて}……文學博士 矢野 仁一

無收益財産の課税……法學博士 神戸 正雄

江戸時代^{に於ける}田畠永代賣買の禁止……文學博士 三浦 周行

時 論

支那の排外運動^{に對する}根本方策……法學士 作田 莊一

說 苑

農政上より見たる家産制度……經濟學士 八木芳之助

リカアド^{に於ける}勞働價值法則の妥當性^{に就いて}……經濟學士 森 耕二郎

雜 錄

近世農村問題の性質……經濟學博士 本庄榮治郎

我國最近の死産に就て……經濟學士 岡崎 文規

間接稅負擔の地方別研究……法學士 汐見 三郎

法 令

五分利國庫債券（第二十五回）發行規程・朝鮮簡易國勢調查ニ關スル件・樺太簡易國勢調查施行規則

（禁 轉 載）

法 令

五分利國庫債券(第二十五回)發行規程

大藏省令第十八號 (大正十四年七月二十三日)

第一條 政府ハ國債整理基金特別會計法第五條ニ依リ五分利國庫債券(第二十五回)六千萬圓ヲ發行ス

第二條 本國庫債券ノ發行價格ハ左ノ區別ニ依ル

一 現金拂込ヲ 額面金額百圓ニ付 九十二圓二十五錢

二 依リ國債代用 額面金額百圓ニ付 九十一圓七十五錢
拂込ヲ爲スモノ

第三條 本國庫債券ノ元金ハ大正二十五年三月一日迄ニ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス

第四條 本國庫債券ノ利率ハ年五分トス

第五條 本國庫債券ノ大正十四年十二月一日以前ニ屬スル利子ハ額面金額百圓ニ付一圓三十七錢トス

第六條 本國庫債券ノ應募申込期間ハ大正十四年八月七日ヨリ同十日迄トス但シ時宜ニ依リ同十日前ト雖其ノ申込ヲ締切ルコトアルヘシ

取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ依リ大正十四年八月七日前ト雖應募申込ヲ受クルコトヲ得

附 濟 法 令

第七條 本國庫債券ノ應募者ハ應募額及住所氏名ヲ記載シタル應募申込書ニ應募額百圓ニ付五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ但シ官廳又ハ公共團體其ノ他之ニ準スヘキモノノ應募申込ニハ保證金ヲ要セス

前項ノ保證金ニハ利子ヲ附セス

第八條 本國庫債券ノ應募總額カ發行額ヲ超過スルトキハ各應募申込ニ對シ適宜募入額ヲ定ム

第九條 本國庫債券ノ應募申込ニ對スル募入額ハ大正十四年八月十五日迄ニ之ヲ決定シ應募者ニ通知ス

募入外ト爲リタルモノノ保證金ハ提供者ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス

第十條 本國庫債券ノ應募者ニシテ募入ノ通知ヲ受ケタルモノハ左ノ區分ニ依リ募入額ニ對スル拂込金額ヲ應募申込ヲ爲シタル取扱銀行ニ拂込ムヘシ但シ第一期拂込ハ保證金ヲ要セサルモノノ拂込ニ在リテハ之ヲ第二期ニ繰下ケ其ノ他ノモノニ在リテハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

第一期 大正十四年八月十五日

募入額百圓ニ付五圓

第二期 大正十四年八月二十四日

募入額百圓ニ付八十七圓二十五錢

前項ノ規定ニ依ル拂込ハ拂込期日前ト雖之ヲ爲スコトヲ得

第十一條 五分利國庫債券(三號)(め號)ハ額面金額百圓ニ付百一圓二十五錢ノ割合ヲ以テ本國庫債券拂込ノ現金ニ代用スルコトヲ得但シ大正十四年九月一日渡利札ノ欠缺セル證券ノ代

第二十一卷 (第三號 一六一) 四五九

經濟法令

用價格ハ各其ノ額面金額ニ依ル

第十二條 前條ノ規定ニ依リ國債代用拂込ヲ爲スヘキ者ノ應募申込、募入決定及拂込其ノ他ノ事項ハ第六條乃至第九條ノ規定ニ依ルノ外左記各號ノ規定ニ依ル

一 應募申込書ニハ證券ヲ以テスルモノハ國債ノ名稱、記名無記名ノ區別及其ノ額面總額ヲ、甲種登錄國債ヲ以テスルモノハ國債ノ名稱、登錄番號及登錄金額ヲ附記シ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

二 應募申込ト同時ニ代用證券ノ引渡ヲ爲シ又ハ甲種登錄國債代用拂込ノ應募申込ヲ爲ス場合ニ於テハ保證金ヲ提供スルコトヲ要セス

三 甲種登錄國債代用拂込ノ應募申込アリタルトキハ其ノ登錄國債ニ對シ質權設定ノ登錄請求アリタルモノト看破ス

四 全部募入外ト爲リタル應募申込ニ付引渡ヲ爲シタル代用證券ハ引渡ヲ爲シタル者ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス

五 全部募入外ト爲リタル代用甲種登錄國債ノ質權ノ登錄ハ募入法定ノ日ニ於テ之ヲ抹消ス

六 代用證券ハ大正十四年八月二十四日迄ニ應募申込ヲ爲シタル取扱銀行ニ之ヲ拂込ムヘシ

七 代用甲種登錄國債ハ大正十四年八月二十四日ニ於テ之ヲ拂込ミタルモノト看破ス

八 證券代用拂込ノ應募申込ニ對スル保證金ハ本條第六號ノ拂込ノ時以後ニ於テ提供者ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス

第二十一卷 (第三號 一六二) 四六〇

九 代用國債ノ代用價額カ拂込金額ニ超過スルトキハ其ノ超過ハ大正十四年九月一日以後領收證書ト引換ニ之ヲ支拂フ

第十三條 本國庫債券ノ現金拂込ヲ延滞シタルモノハ拂込期日ノ翌日より現拂込ノ日迄拂込金額百圓ニ付日歩四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ支拂フヘシ

現金拂込期日後三箇月内ニ現金拂込ヲ爲ササルモノ又ハ大正十四年八月二十四日迄ニ代用證券ノ拂込ヲ爲ササルモノニ付テハ應募申込ヲ無効トシ既ニ拂込ミタル金額又ハ提供シタル保證金ハ之ヲ政府ノ所得トス

第十四條 本國庫債券ノ應募者拂込ヲ爲シタルトキハ領收證書ヲ交付シ追テ之ト引換ニ本證券ヲ交付ス但シ國債規則第二十七條ノ規定ニ依リ甲種國債登錄簿ニ登錄ノ請求ヲ爲シタルモノニ對シテ領收證書ト引換ニ登錄濟通知書ヲ交付ス

甲種登錄國債ヲ以テ拂込ノ現金ニ代用シタルモノニ對シテハ其ノ登錄ヲ除却シタル後前項ノ規定ニ準シ證券又ハ登錄濟通知書ヲ交付ス

附則

本令ハ公布ノ日より之ヲ施行ス

代用拂込甲種登錄國債ハ應募申込書ニ依リ代用拂込乙種登錄國債ハ應募申込書及證券ニ依リ其ノ登錄ヲ除却ス

大正十四年簡易國勢調査ニ關スル件

朝鮮總督府令第六十六號（大正十四年五月二十八日）

第一條 簡易國勢調査ハ大正十四年十月一日午前零時ノ現在ニ依リ之ヲ行フ

第二條 簡易國勢調査ハ前條ノ時期ニ於テ朝鮮内ニ現在スル者ニ付左ノ事項ヲ調査ス

一 氏名又ハ姓名

二 男女ノ別

三 出生ノ年月

四 配偶ノ關係

五 本籍又ハ國籍

前條ノ時期前ニ帝國ノ港灣ヲ發シ途中寄港セスシテ前條ノ時期後四日以内ニ始メテ朝鮮ノ港灣ニ入りタル者ハ大正十四年十月一日午前零時ニ朝鮮内ニ現在シタル者ト看做ス

第三條 前條ノ調査ハ各世帯ニ就キ之ヲ執行ス

本令ニ於テ世帯ト稱スルハ住居及家計ヲ共ニスル者ヲ謂フ
一人ニシテ住居ヲ有シ家計ヲ立ツル者亦一世帯トス
家計ヲ共ニスルモ別ニ住居ヲ有スル者又ハ住居ヲ共ニスルモ別ニ家計ヲ立ツル者ハ一世帯トス其ノ一人ナル場合亦同シ
寄宿舎、病院、旅店、下宿屋其ノ他家計ヲ共ニセサル者ノ集合スル場屋又ハ船舶ニ在ル者ニシテ其ノ家計ヲ共ニセサルモノハ一場屋又ハ一船舶毎ニ一世帯ニ準ス

經濟法令

第四條 世帯主又ハ世帯ノ管理者ハ其ノ世帯ニ現在スル者ニ就キ簡易國勢調査申告書ヲ以テ第二條第一項各號ノ事項ヲ申告スルノ義務アルモノトス

世帯ニ於テ世帯主ナキトキ又ハ不在ナルトキハ事實上之ヲ管理スル者、世帯ニ在ル者ノ選定スル者又ハ簡易國勢調査員ノ指定スル者ヲ以テ世帯ノ管理者トス

第五條 大正十四年十月一日午前零時ニ朝鮮内ニ現在シタル者何レノ世帯ニ於テモ調査セラレザリシコト又ハ重複調査セラレタルコトヲ知リタルトキハ同月四日迄ニ最寄ノ簡易國勢調査員又ハ府廳面事務所ニ其ノ旨申出ツヘシ

第六條 道知事ハ朝鮮總督ノ命ヲ承ケ道内ノ調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第七條 郡守又ハ島司ハ道知事ノ命ヲ承ケ其ノ管内ノ調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第八條 府尹ハ道知事ノ指揮監督ヲ承ケ府内ノ調査ノ執行ヲ掌ス

第九條 面長ハ郡守又ハ島司ノ指揮監督ヲ承ケ面内ノ調査ノ執行ヲ掌ス

第十條 府尹又ハ面長ハ調査ヲ執行スル爲道知事ノ認可ヲ經テ府又ハ面ノ區域ヲ調査區ニ分割ス

第十一條 簡易國勢調査ノ事務ヲ執行セシムル爲府及面ニ簡易國勢調査員ヲ置ク

第十二條 簡易國勢調査員ハ道知事ノ推薦ニ依リ朝鮮總督之ヲ命ス

經濟法令

簡易國勢調査員故障ノ爲調査ニ從事シ難キ場合ニ於テ已ムヲ得サルトキハ府尹又ハ面長ハ適當ノ者ヲシテ之ニ代ラシムルコトヲ得

簡易國勢調査員ハ名譽職トス

第十三條 簡易國勢調査員ニハ所定ノ徽章ヲ交付シ職務執行ノ際之ヲ佩用セシム

第十四條 簡易國勢調査員ハ府尹又ハ面長ノ指揮監督ヲ承ケ擔當調査區内ニ於ケル簡易國勢調査申告書ノ調査事項ノ記入其ノ他之ニ伴フ諸般ノ事務ヲ執行ス

簡易國勢調査申告書ハ様式第一號ニ依ル

第十五條 簡易國勢調査員各世帯ニ就キ前條ノ職務ヲ執行スル期間ハ大正十四年九月二十一日ヨリ同年十月五日迄トス但シ期間經過後ト雖簡易國勢調査申告書ノ記載事項ニ關シ質問ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 府尹又ハ面長ハ府又ハ面内ノ簡易國勢調査ノ結果表ヲ通知事ノ定ムル期限迄ニ府尹ハ通知事ニ、面長ハ簡易國勢調査申告書ト共ニ郡守又ハ島司ニ提出シ郡守又ハ島司ハ通知事ノ定ムル期限迄ニ面ノ結果表ト共ニ郡又ハ島ノ結果表ヲ通知事ニ提出シ通知事ハ朝鮮總督ノ定ムル期限迄ニ府、面、郡及島ノ結果表ト共ニ道結果表ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

前項ノ結果表ハ様式第二號ニ依ル

第十七條 天災事變ノ爲簡易國勢調査員第十五條ノ期間内ニ其ノ職務ヲ執行シ又ハ之ヲ完結スルコト能ハサルトキハ通知事ハ直ニ其ノ旨朝鮮總督ニ報告スヘシ此ノ場合ニ於テハ通知事

第二十一卷 (第三號 一六四) 四六二

ハ朝鮮總督ノ認可ヲ經テ區域ヲ限リ別ニ期間ヲ定メ又ハ其ノ期間ヲ延長ス
通知事別ニ期間ヲ定メ又ハ期間ヲ延長シタルトキハ直ニ之ヲ告示ス

第十八條 左ニ掲クル場所ニ於ケル調査ノ手續ハ別ニ之ヲ定ム

一 王公族ノ殿邸

二 陸海軍ノ部隊及艦船

三 刑務所

四 行動中ノ列車

五 仁川、群山、木浦、釜山、鎮南浦、新義州、龍巖浦、元山、清津、城津、雄基各港ノ水面

第十九條 簡易國勢調査申告書ハ統計上ノ目的ニノミ使用シ如何ナル場合ト雖之ヲ公表スルコトヲ得ス

第二十條 簡易國勢調査ニ際シ調査ヲ忌避シ申告ヲ拒ミ又ハ故意ニ不實ノ申告ヲ爲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス申告義務者ヲシテ申告ヲ爲スコトヲ得サラシメ又ハ不實ノ申告ヲ爲サシメタル者亦同シ

第二十一條 虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計若ハ威力ヲ用テ簡易國勢調査ヲ妨ケタル者ハ二月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 簡易國勢調査ノ事務ニ從事シタル者其ノ職務ノ執行中知得シタル個人ニ關スル事項ヲ故ナク漏洩シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十三條 本令ニ依リ府尹、面長及簡易國勢調査員カ調査ノ

事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ當該府又ハ面ノ負擔トス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(様式省略)

簡易國勢調査施行規則

樺太廳令第二十一號 (大正十四年六月十九日)

第一條 樺太ニ於ケル簡易國勢調査ハ左ノ事項ヲ調査ス

一 氏名

二 男女の別

三 出生の年月

四 配偶の關係

五 種族の別(土人に限る)

第二條 前條ノ調査ハ各世帯ニ就キ之ヲ執行ス

第三條 世帯主又ハ世帯ノ管理者ハ其ノ世帯ニ現在スル者ニ就

キ國勢調査申告書用紙ヲ以テ第一條ニ掲クル各事項ヲ申告スルノ義務アルモノトス

第四條 世帯ニ於テ世帯主ナキトキ又ハ不在ナルトキハ事實上之ヲ管理スル者、世帯ニ在ル者ノ選定シタル者又ハ國勢調査員ノ指定シタル者ヲ以テ世帯ノ管理者トス

經濟法 令

第五條 國勢調査申告書用紙ハ大正十四年九月十六日ヨリ同月

二十九日迄ノ間ニ於テ國勢調査員之ヲ各世帯ニ配付ス

第六條 申告義務者前條ノ期間内ニ國勢調査申告書用紙ノ配付ヲ受ケサルトキハ當該區域ノ擔當國勢調査員又ハ所屬町村長ニ其ノ旨申出テ之ヲ交付ヲ受クヘシ

第七條 申告義務者ハ大正十四年十月一日午前八時迄ニ國勢調査申告書ヲ作成シ國勢調査員ノ巡回ヲ待チ之ヲ提出スヘシ申告義務者ニシテ國勢調査申告書ヲ作成シ能ハサルモノハ國勢調査員代リテ作成スルコトヲ得

第八條 大正十四年十月一日午前零時ニ帝國版圖内ニ現在シタル者何レノ世帯ニ於テモ申告セラレサリシコトヲ知リタルトキハ同月四日迄ニ最寄町村長又ハ國勢調査員ニ其ノ旨申出ツヘシ

第九條 支廳長ハ樺太廳長官ノ命ヲ承ケ其ノ管轄區域内ノ調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第十條 支廳ノ出張所長ハ支廳長ノ命ヲ承ケ其ノ管轄區域内ノ調査ノ執行ヲ補助ス

第十一條 警察署長及警察分署長ハ支廳長ノ要求アルトキハ其ノ管轄區域内ノ調査ノ執行ヲ補助スヘシ

第十二條 町村長ハ支廳長ノ指揮監督ヲ承ケ其ノ町村内ノ調査

第二十一卷 (第三號 一六五) 四六三

ノ執行ヲ管掌ス

第十三條 町村長ハ調査ヲ執行スル爲メ支廳長ノ認可ヲ得テ町村ノ區域ヲ調査區ニ分割ス但シ特別ノ事情アルトキハ支廳長ノ認可ヲ得テ一町村ヲ以テ一調査區ト爲スコトヲ得

第十四條 前條ノ調査區ニハ國勢調査員若干人ヲ置ク

第十五條 國勢調査員ハ支廳長ノ内申ニ依リ樺太廳長官之ヲ命ス

第十六條 國勢調査員ハ名譽職トス

第十七條 國勢調査ノ事務ニ従事スル者ニハ別ニ定ムル徽章ヲ交付シ職務執行ノ際之ヲ佩用セシム

第十八條 支廳長ハ管内ニ於ケル國勢調査員ノ任命アリタルト

キハ其ノ氏名ヲ告示スヘシ

第十九條 町村長ハ各調査區ノ番號、區域及擔當國勢調査員ノ氏名並豫備國勢調査員ノ氏名ヲ告示スヘシ

第二十條 國勢調査員ハ町村長ノ指揮監督ヲ承ケ擔當調査區ニ於ケル國勢調査申告書用紙ノ配付、國勢調査申告書ノ蒐集其ノ他之ニ伴フ諸般ノ事務ヲ執行ス

第二十一條 國勢調査員各世帯ニ就キ前條ノ職務ヲ執行スル期間ハ九月五日ヨリ十月五日迄トス但シ蒐集シタル國勢調査申告書ノ記載事項ニ關シ質問ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

天災事變其ノ他避クヘカサル事由ニ依リ國勢調査員前項ノ

期間内ニ其ノ職務ヲ執行スルコト能ハサルトキハ直ニ町村長ニ報告シ其事由ノ止ミタル後直ニ之ヲ執行スヘシ

町村長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ速ニ支廳長ニ報告スヘシ

第二十二條 町村長ハ國勢調査申告書及調査書類ヲ十月十五日迄ニ支廳長ニ、支廳長ハ十一月十五日迄ニ樺太廳長官ニ提出スヘシ

第二十三條 國勢調査ノ事務ニ従事シタル者ハ其ノ職務執行中知得シタル事項ヲ故ナク他ニ漏洩スヘカラス

第二十四條 本令ヲ適用シ難キ場所ニ關スル調査ニ付テハ樺太廳長官別ニ其ノ手續ヲ定ム

第二十五條 國勢調査ニ關シ調査ヲ忌避シ申告ヲ拒ミ又ハ故意

ニ不實ノ申告ヲ爲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス申告義務者ニシテ申告ヲ爲スコトヲ得サラシメ又ハ不實ノ申告ヲ爲サシメタル者亦同シ

第二十六條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒテ國勢調査ヲ妨ケタル者ハ七十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第二十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス